

## 17. 天白子ども食堂

記録：小瀧一誠

場 所：原ターミナルビル3階（名古屋市天白区原1丁目301番地）  
対 象：幼児～中学生、付き添いの大人  
参 加 費：子ども 無料、大人300円（大人だけの参加は500円）  
代 表：佐藤博文さん  
初 回：2016年4月23日（土）11：00～13：00 毎月1回

参加日時①：11月13日（日）11：00～13：00（ボランティア10：00～14：00）

参加人数：子ども14人、大人11人

献 立：炊き込みピラフ、わかめのかき玉汁、キャベツの千切り、グラタン、ハンバーグ、手作りクッキー

参 加 者：井上実、小瀧一誠

参加日時②：12月17日（日）11：00～13：00（ボランティア10：00～14：00）

参加人数：子ども、大人両方合わせて50人くらい

献 立：カレーライス、サラダ、コーンスープ、クラッカーパーティー、みかん、ケーキ

参 加 者：井上実

参加日時③：2月12日（日）11：00～13：00（ボランティア10：00～14：00）

参加人数：子ども、大人両方合わせて25人くらい

献 立：あんかけチャーハン、わかめスープ、煮たまご、イチゴの杏仁豆腐

参 加 者：井上実、小瀧一誠

### ◎Facebook から引用

#### 天白子ども食堂について

私たちも、温かいご飯とみんなと楽しく食べられる居場所を提供したいという思いから、地元である名古屋市天白区でこの活動を始めようと思いました。また、子どもたちとボランティアで来ていただく近所のおじさんおばさん高校生大学生を、つなぐ場所になれたらいいなあとも思っています。どうぞみなさんお誘いあわせの上、楽しくにぎやかな雰囲気の中での温かいご飯を食べにいらしてください。

### ◎きっかけ

2015年12月くらいに「子ども食堂ネットワーク」というサイトに「子ども食堂の作り方講座」というものがあるとニュースで見た。そのサイトを見たことで運営方法が分かり、人が集まれば開催できると思い始めようと思った。

主催者の佐藤さんは仙台の出身で東日本大震災を経験している。震災を経験しコミュニティの大切さが分かった。学生時代に名古屋で過ごしていて（8年くらい）、その後2年間仙

台で過ごしていた。その時に被災し、進路に迷っていたので家族を連れて名古屋に戻ってきた。当初は貧困対策を目的にやろうと思っていたが、貧しい家庭へのアプローチ方法、つながる方法が分からない、貧困対策と言っている所に本当に困っている人は来ることができない、などの理由から対象者は絞らず、来たい人は来てね、というスタンスに変わった。

#### ◎お店

主催者さんの親御さんが暇そうだったので声をかけて一緒に始めた。最初は主催者さんの知り合いとお母さんの知り合いでやっていた。料金は先人たちを真似ている。最初の3、4回はミーティングをしてメニューを決めていたが、各々忙しくて集まれなくなったので1年分一気にいろんなことを決めるようにした。ボランティアの数が少なかった時に高学年の子に料理を手伝ってもらった。それが思いのほか好評だったので、それ以降、子どもとパンを作ったり、お菓子を作ったりといった子どもが参加できる企画を行うようになった。子どもも料理ができるのがウリ。ボランティア次第で工作をしたり、何かを作ったり色んなことができる。子ども食堂が託児所のように使われるのはちょっと、という意見や、親子で来てそれぞれ別々に過ごさずに、親子の触れ合いの場にしてほしい、という意見がある一方、普段忙しい親御さんが安心して子どもを預け、普段できないことをやる時間にしてほしい、という意見もあり、運営する人な中でも意見が分かれており、方向性に迷いが生じている。Facebookで食べ物や活動資金の寄付、場所の提供、ボランティアなどの呼びかけを行っている。

#### ◎場所

社会福祉協議会から場所を借りているが佐藤さんたちに社協とのつながりは特にない。天白区社会福祉協議会が毎月抽選で場所を貸し出しており（HPに応募ページあり）、それに応募して毎月当選した日に子ども食堂開いている。今のところ継続して開催できているが、もしかしたら今後開催できない月がでてくるかもしれない。

#### ◎宣伝

どこに子どもがいるのか分からないのでメインはポスティングを行っている。始めたばかりの頃は児童館にチラシを貼っていた。今回は天白フリモから取材の話をいただきフリーペーパーに載った。フリーペーパーの力は大きい。ボランティア、参加者の中にフリーペーパーを見てきたという人がたくさんいた。今回は参加人数が多かった。

#### ◎ボランティア

高校生以上はボランティアとして参加。今回は初めての人が4人。東海学園大学の学生、近所の人。Facebookで知って来てくれる。ボランティアの登録用紙があり、定期的に参加する人はそこに記入する。

#### ◎来店者

初回は1組。2回目以降人が増えた。多くて30組くらい。人数が多いと面倒をみきれない

ので多すぎない方が良く、どうしても大きい子と小さい子が分かれて過ごすことになってしまうので、ここには高校生は入れないと思い中学生までと設定した。幼児は親と一緒に来てもらう。

#### ◎食材、献立

おてらおやつクラブから食品、おやつ、日用品の寄付がある。暮らしを耕す会（御器所、いりなかの間）からの寄付がある。有機農法の店からお米の寄付がある。少し質の悪いお米（炒め物に使うようなもの）の寄付がある。普通の家からもお米の寄付がある。近所の人から野菜を貰うが、必要な分の寄付があるわけではない。お米は余るほどあるが、それ以外は購入している。食材は参加費と自腹で賄っている。季節感を意識した調理を心掛けている。大学生チームというのがあり、今回は大学生がメニューを決めて当日の仕切りもやっていた。毎回リーダーを決めてその人の指示のもと動いている。おかわり OK。アレルギー対策はできていない。そこまでやるのは大変。お菓子の詰め合わせの持ち帰りがあった。

#### ◎課題

今は 11 時から 13 時の 2 時間だが、今後 10 時から始めて、遊んだり勉強したりする時間を作ろうか悩んでいる。学習支援を作るか、どこまで取り入れるかのバランスが難しい。今は遊びだけで充分なのかなという思いもあり、どこまで自分たちでやるか悩んでいる。→2 月の子ども食堂後の会議で、4 月から学習支援を取り入れると話していた。

#### ◎感想

①今まで行ったところは食事がメインというところがほとんどだったが、天白こども食堂さんは子どもたちが大人と一緒に料理や工作をしていて、こういった参加型のところは珍しいと思った。スタッフさんが参加者の名前を覚えて呼んでいて、リピーターが多いのかなと思った。参加者のほとんどが幼児と親という組み合わせだった。親子で過ごしている人もいれば、親子別々で過ごしている人達もいて、みんな自由に過ごしていた。食材の寄付がない、食材費が自腹というのには驚いた。今まで見学に行ったところは食材の寄付を十分に貰っているところが多く、食材は貰えるものだと思っていたが、食材を貰えるのが当たり前ではないという事が分かった。このような子ども食堂が今後も継続して開催していくために何が必要かを考えていけたらいいなと思った。

②調理といったら大人の人を中心となって進めていくイメージだが、今回のように学生が中心となって進めていくことにより、より色んな世代の人が協力し関わっていくことができているなと思った。前回参加した時よりも朗らかな雰囲気だった。

場所の貸し出しが毎月抽選だというのには驚いた。毎月抽選のため、今後もしかしたら抽選に外れて開催できない月があるかもしれない。今回、天白フリモに記事が掲載された影響でせっかく参加者が増えたのに、どこかで途切れてしまうのは勿体ない。継続することで地域の信頼を得ることができると思うし、顔馴染みができたり、毎月決まっていける場所があることで、ひとりひとりの安心できる居場所になると思う。なんとか継続して開催して欲しい。

③今回は、バレンタインが近いということでチョコ作りをした。ただチョコを食べるだけじゃなく、どんな人がチョコ作りにかかわっているかを子どもでもわかりやすくスライドで説明していて、勉強の意味も含まれているように感じた。学習支援をずっとやりたいと考えておられて、子ども食堂報告会で周りの子ども食堂も同じことを考えていることがわかり、今回の子ども食堂後、学習支援についての具体的な話し合いをしていた。学習支援の開催場所なども具体的に決まっており、行動に移すのが早く子どもについて支援したいというより気持ちが伝わってきた。

◎写真



**天白こども食堂**  
次回は  
ひにち 12月17日(土)  
じかん 11:00~13:00  
はしよ 天白区在宅サービス  
センター研修室  
参加対象 幼児~中学生  
参加費 こども 無料  
大人 300円  
大人だけの参加は500円

